

りうかうむすめむこたくさん
流行娘罍沢山

おすま 岩井紫若

へモシあの娘はなまいきだねへとしも

ゆかないくせにひとり女のよう

はゞをきかせてゐるヨわたし

なんぞはとしのゆかないじ

ぶんははづかし

くつてあん

なにゑばる

事はでき

なかつたヨ

ほんにときよ

／＼だねへ

豊くらの主 中村芝翫

へそれはあねこのいふとふり今は娘がゑはるのう

しかしおれも豊くらのあるじだあんな娘にほれちやア

かしの御ひるきへすみやせんマアいろになるのは

おあいださね

鳶の長吉 市村家橘

へはゞかりながらみなさんもごぞんじ

のとふり此とちのはへぬぎだア

ごろつきとかなんとかいは

れて此すがたになつても

女もたアんとほれやさア

マアあノあまのいろになる

のはおことはりでござへ

やす

菱の市与兵へ 河原崎三升

へわつちもむこになろうかと思つたがあんなに

わがまゝぢやアこまりやすもうちつとおとなしく

すればよかろうに

朝ぎり鶴蔵 市川九蔵

「アノ娘にやア去年からおれもいろくろふして見たがみんながごまをするのじやうずにつかふのトいろ／＼いはれるからまことにこまるどふか人のしらねへやうにいろになりてへものだテ

森田や惣次郎 沢村訥升

「アノ娘はわたし
の身うちだがわ
がまゝものでまことに
困りやすおとなしくすればいゝに

紫玉けん 沢村由三郎

「アノ娘にほれこんでたつた一どでもいゝからと
神仏へしん／＼して茶だちしほだちだんじ
きしておがんでおります

田舎武士 沢村い十郎

「此方武士ながらアノ娘にはふんこつさいしん
して武士道をして命がけでくどけどもさら
になびかぬゆへ此方ぼんやりといたしたどふかよひ
しあんもあるまいか
しらん

けいあんばゝ 中村相蔵

「モシおよしさんわたしにみなさんがまい日／＼
お前さんの事をおたのみで
有升がその中からアノばんとう
さんは命にかけてといふのでムリ升
からいゝへんしを聞ておくんな
はいな

うはばみおよし 澤村田之助

〱皆さんの御しんせつは誠に嬉しう有升が

わちきも煩ひのある身どふそあしくおぼしめさ

すにかんにんしておくれけしてたかふるのすま

すのといふわけては

ありませんヨ

若い者かん七 嵐冠五郎

〱モシ十三さんアノおむすがおまへさんにじつ／＼

ほれており升けしてうそではござりませんどふか

アノむすめのいろになつておやりなさいませんかへ

十三 坂東彦三郎

〱それはわかい衆とりもち有がたいがせつしやも

武士のすへなればあのやうなむすめにかれこれと

いはれるやうなものではござらぬあいらとは時代が

ちがふから見へても十三郎でござり升ぞ

主膳 中村仲太郎

〱せつ者事どふかいたしてアノ娘のいろになりと

またはむこにならならんものとぞんじおり候

番頭重助 中山現十郎

〱コレけいわんどのどふかとりもちしてあの娘の

むこになるやふにたのみ升おれいはなにほど

でもいといはしませぬもふし／＼おばアさん

くりから伝二 大谷友右衛門

〱わつちだつて組あいでなんとか

かとかいはれるものだナアに

あんなあまつちよにけち

をつけられては

ともだちへす

みやせん先キ

がさきなら

こつちも

こつち色

どころか

口をきくも

いやでござへす

八人にいかてか

われんそろ盤の

玉のやふなる

むすめひとりは